

令和6年度第3回君津市地域公共交通会議 会議録

- 1 名 称 君津市地域公共交通会議
- 2 開催日時 令和7年3月21日（金）午前10時00分から10時46分
- 3 開催場所 君津市役所 5階大会議室
- 4 議 題 取組管理シートに基づく評価について
- 5 報告事項 (1) コミュニティバス中島・豊英線等の契約手続きについて
(2) コミュニティバス中島・豊英線、人見・大和田・神門線及びデマンド
タクシーにおける交通系ICカード決済の運用開始について
- 6 配布物 令和6年度第3回君津市地域公共交通会議資料
- 7 出席委員 17名

荒井 淳一	小林 聡	伊藤 昌央	手塚 真一
高橋 晴樹	藤代 純一	鈴木 政一	鈴木 満
田村 学	齋藤 健吉	齊藤 敦	正能 俊輔
平野 利夫	亀田 達也	藤井 敬宏	

代理出席

山本 朱美（川名 正志 代理） 岩田 知之（伊藤 貴夫 代理）

欠席委員

新谷 和宏 成田 斉 伊丹 嘉一 杉本 忠

- 8 オブザーバー 1名
市野 将英（国土交通省関東運輸局交通政策部交通企画課）
- 9 事務局 企画政策部 部長 鈴木 広夫
企画政策部 次長 津野 広昭
企画調整課 課長 中村 峰之
企画調整課交通政策室 室長 佐久間 貴幸
企画調整課交通政策室 主任主事 竹内 裕太
企画調整課交通政策室 主任主事 久保 亮
市民生活部市民生活課 課長 野村 出
市民生活部市民生活課 係長 倉見 信司

- 10 公開または非公開の別 公開 ・ 非公開

- 11 傍聴者 8名

- 12 発言の内容

冒頭、事務局（佐久間室長）の進行により開会。

（佐久間室長）

【オブザーバー・出席者の報告】

(荒井会長)

皆様、おはようございます。副市長の荒井と申します。委員の皆様におかれましては、大変ご多用の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より本市の交通行政に対しまして、格別なるご支援・ご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、地域公共交通を取り巻く環境は、燃料費や人件費の上昇、そして慢性的な運転手不足といった課題が続く中、地域公共交通の持続可能性を確保することが急務となっております。

こうした中、本市では、「君津市地域公共交通計画」に基づき、持続可能な公共交通の実現を目指し、交通事業者等と連携しながら、各種施策に取り組んでおります。

本日の議題となります「取組管理シートに基づく評価」につきましては、令和6年度における各種施策の取組実績をまとめたものでございます。

委員の皆さまには、今年度の取組を振り返っていただき、専門的な知識や経験から、次年度の施策に活かすため、様々なご意見を賜るようお願い申し上げます。

また、コミュニティバス中島・豊英線等の契約手続きに関する報告のほか、コミュニティバス中島・豊英線、人見・大和田・神門線及びデマンドタクシーにおける交通系ICカード決済の運用開始についても報告をさせていただきます。

委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(佐久間室長)

【資料確認】

(荒井会長)

それでは、しばらくの間、進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の出席委員は、17名で定足数に達しておりますので、これより、令和6年度第3回君津市地域公共交通会議を開催いたします。

なお、本日の会議録署名人でございますが、齊藤 敦委員を指名いたします。

それでは、早速、議事にはいります。

まず、議題1 「取組管理シートに基づく評価について」事務局からの説明を求めます。

(久保主任主事)

議題1 「取組管理シートに基づく評価について」

～ 資料に基づき説明 ～

(荒井会長)

議題1につきまして、ご質問・ご意見がありましたらお願いいたします。

(鈴木委員)

施策3事業① ICカードの利用促進やキャッシュレス決済の検討について、取組概要には「必要に応じてクレジットカードやQR決済等の料金決済導入について検討します」とあります。

そこで、令和6年度取組内容では、「ICカード決済以外の決済手段の導入可能性について調査する」こととなっておりますが、取組実績では、その件についてはコメント等がなかったため、どのような調査を行ったのか確認させていただければと思います。

(久保主任主事)

今年度の取組として、高速バスにおいて、クレジットカードのタッチ決済に関する導入検討を実施いたしました。これまでは、交通系ICカードでの決済が主流でしたが、その他のデバイスでの決済手段導入について検討しております。

また、高齢者等への移動支援の取組において、マイナンバーカードを利用した決済手段の導入などを検討しております。

(荒井会長)

他にありますでしょうか。

(藤井委員)

今回のファースト・ラストワンマイルの取組において、ロジックツリーという形でつくられたということで、これを今後どう活用するかですが、ユーザー層というところで、実際にいろんな自治体さんのお話を伺っていると、「地域の要望があるものの、その質を把握しにくい。」というパターンが非常に多いです。

ある自治体では、1人、2人といったようなレベルの利用者のところで、非常に大きな公共交通を維持していて、モビリティ依存型の課題などが指摘されている。こんな自治体等もございます。

そういった中で、このようなツリー構造を整理して、これで全てフィックスするものではありませんが、この考え方に基づくと、どういう利用者に対してどういう利用手段といったものを届けるのか、これが、どう一つの連続的なシームレスな移動環境を確保するのか、といったところで、考え方として大事になってくる。

そのときに、自治体の取組として、地域別の課題を洗い出す時の一つのツールとして、モビリティの選択を地域に働きかけることができる。

あと、逆の見方をすると、モビリティマネジメントというキーワードで、バスやタクシ

一など公共交通を使いましょうという御案内もされていますけれども、自分たちの地域の身の丈に合った移動手段といったものについて、モビリティマネジメントの一環として、公共交通の枠組みの中で、どういう形で、この地域に寄り添って組み込んでいただけるのだろうかといったような視点を、地域の方々がイメージできるよう、このツリーの中で検討してほしいと思います。

今は、モビリティの選択肢が広がっていく中で、本当に地域の中で活用できるかどうか、これがなかなか分かりにくいといったところもございますので、そういった意味で活用していただけるように展開してくれるといいなと思います。

そのように実施している自治体は極めて少ないので、ここまで作ったのであれば、モデルケースとして、地域に根づく仕組みとして、ぜひ、発展させていただきたいなと。これがお願いでございます。

それと、公共交通のモビリティマネジメントについて、ご説明いただきました。

どちらかというと、これまでのモビリティマネジメントは、環境に対してや自動車交通の抑制のためなどの目的性を持った形で、学校教育の場あるいは企業の場合、いろんな形で、その言葉が使われてきましたが、地方都市になってくると、公共交通が維持できないという形の中で、モビリティマネジメントの考え方が、「皆さんが乗ってくれないと公共交通維持できません」と、こういった形のプレゼンテーションといいますか、ある意味危機感を中心とした公共交通を存続させるためのアプローチとして使われてきました。

そういったことを踏まえ、今回のモビリティマネジメントの中身を見てみると、環境負荷に関することなど、本来の趣旨に戻ってきたと感じています。特に今、カーボンニュートラルやゼロカーボンシティという形で、自治体さんの方向性そのものが、企業なり、あるいは一人一人の移動そのものなど、生活の中からCO₂を削減する仕組みを目指していくというものになってきている中で、公共交通を活用することに意義があるということをしちんと提示したという、このスタンス変更は、君津市としての交通事業として、ひとつ舵を切ったのかなという感じはしています。

であればなおさら、総合的な施策として、環境面であれば、単に公共交通だけではなくて、その他の事業、関連部局と合わせたトータルの仕組みとしてのCO₂削減の問題という形に連動していかなければいけませんので、ぜひこれを横に展開していただきたいなと思います。

最後に、もう1点。

G T F S形式データの公開という形で御紹介いただきましたが、あまり一般の方たちはよく存じ上げないかも知れませんが、通常は、交通事業者さんで、この仕組みをつくるパターンが多いです。そういった中、今回、君津市さんのほうで、このG T F S形式のデータを組んで、それを交通事業者さんに展開できるように広げたということですから、これは他の自治体にもないオリジナリティの部分が非常に高いところでございます。

これを交通事業者さんにうまく活用してもらえるようにという形でオープンにしたのであれば、それをさらに使ってもらえる仕組みとして、運用できるような形で、ぜひ丁寧に

やっていただきたいなと思います。

そういった面ではA評価と書いてありますが、プラスAをつけてもいいかなと思うくらいのところ動いていますので、そういったことについて少しコメントさせていただきました。

(中村課長)

まず、1点目のファースト・ラストワンマイルの取組につきましては、今回、研究過程のものを、この場で皆さんに共有をさせていただくことによって、地区代表の方々もいらっしゃるので、みんなで公共交通を考えるきっかけになればいいなという思いで、資料として配布させていただいております。

今後もこの資料をブラッシュアップしながら、また地域とも共有をさせていただきながら、先ほど説明させていただいた、この端末交通の部分、特に高齢化が進んでいく中で、課題だという認識がありますので、また地域の皆さんとともに、良い形につくっていければと思っています。

あと、モビリティマネジメントの取組につきましては、今回、広報誌で公共交通を利用することによって、こんなメリットがあるということを、環境のみならず、健康面や経済面、そういった部分で、広く紹介をさせていただいております。

本市の場合、環境グリーン都市宣言をさせていただいておりますので、全庁的な取組につながるよう今後も進めてまいりたいと思っています。

最後に、G T F Sの取組につきましては、今回、事業者さんともコミュニケーションを取りながら、公開しているところです。

今後も、このデータを公開することで、路線検索サービス等で活用がされるように、積極的に対応していければと思っています。

(荒井会長)

他にご質問、ご意見ございますか。

それでは、議題1につきましては、承認ということでよろしいでしょうか。

～異議なし～

異議なしということで、議題1は承認といたします

それでは、報告事項に入ります。始めに報告事項1「コミュニティバス中島・豊英線等の契約手続きについて」、事務局から説明を求めます。

(倉見係長)

報告事項1 「コミュニティバス中島・豊英線等の契約手続きについて」

～ 資料に基づき説明 ～

(荒井会長)

ただいまの報告事項につきまして、ご質問・ご意見がありましたらお願いいたします。
よろしいでしょうか。

それでは、次に報告事項２「コミュニティバス中島・豊英線、人見・大和田・神門線及びデマンドタクシーにおける交通系ＩＣカード決済の運用開始について」事務局から説明を求めます。

(倉見係長)

報告事項２ 「コミュニティバス中島・豊英線、人見・大和田・神門線及びデマンドタクシーにおける交通系ＩＣカード決済の運用開始について」

～ 資料に基づき説明 ～

(荒井会長)

ただいまの報告事項につきまして、ご質問、ご意見はありますでしょうか。

それでは、意見等ないようですので、以上を持ちまして、本日の議題に係る審議を終了といたします。

皆様、御協力ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【その他事項】

１．齋藤健吉委員から、ＪＲ久留里線に係る今後の公共交通会議における協議スケジュール等に関する確認があった。

(事務局)

現在の状況を説明し、関係者と協議中であることから、今後の具体的なスケジュール等については回答を控えさせていただく旨、また、今後、具体的な進展があった場合には、改めて報告をしたいと考えている旨、回答。

２．齋藤健吉委員から、今後の進め方に関する再確認（具体案を地域公共交通会議に示すという認識でよいかという趣旨の確認）があった。

(事務局)

事務局から、然るべき時期には具体的な案を提示していく旨、回答。

3. 平野委員から、J R 久留里線に関する協議について、市民目線に立って J R と協議されたいと意見があった。

(事務局)

市としては、地域にお住まいの方々がこれまで以上に利便性の高まる生活が送れるように取り組んでいくということを大事にしたいと思っているため、委員の考えに沿った形で進めているという認識である旨、回答。

4. 齊藤敦委員から、委員（住民代表）の委嘱に関する確認があった。

(事務局)

これまでどおり、各地区の自治会連絡協議会を通じ、推薦いただく予定である旨、回答。

(佐久間室長)

最後に、事務局から、次回の会議予定について、ご報告申し上げます。

令和7年度第1回会議につきましては、6月頃の開催を予定しております。開催日程等が決まりましたら、ご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第3回君津市地域公共交通会議を閉会といたします。

本日はご多用の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

午前10時46分閉会

会議録署名人 齊藤 敦
